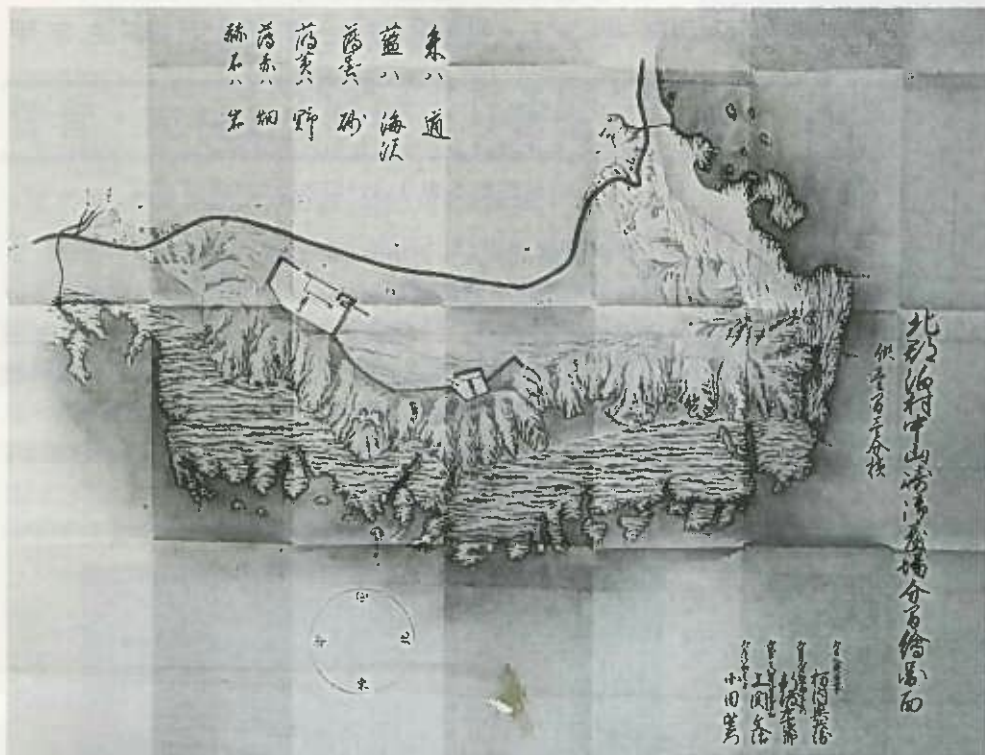


十和田市立 新渡戸記念館だより



※矢印で示したのが、絵図①、②に描かれている部分

①北郡泊村中山崎大砲台場之図
安政2年(1855)
現在の六ヶ所村泊。向かって右が北。中山崎の当時の地形などが細かく記されています。

青森県立郷土館との共同調査として 当館所蔵の海岸絵図調査を開始

今年度の太素顕彰会事業として、当館所蔵の盛岡藩関係海岸絵図面を青森県立郷土館と共同で調査することとなりました。県立郷土館では県史解明に必要な研究材料を収集・提供するための調査として、平成10年から5ヶ年計画で青森県関係の海岸絵図調査を行っています。当館での調査もその一環で、9月28日～29日に第1回目の調査を行い、新渡戸十次郎が安政2～3年頃(1855～56)建設に携わった下北半島の砲台場絵図面31点を対象に調査を開始しました。これらの調査成果は平成12年度の青森県立郷土館調査研究年報に掲載されます。



新渡戸十次郎像



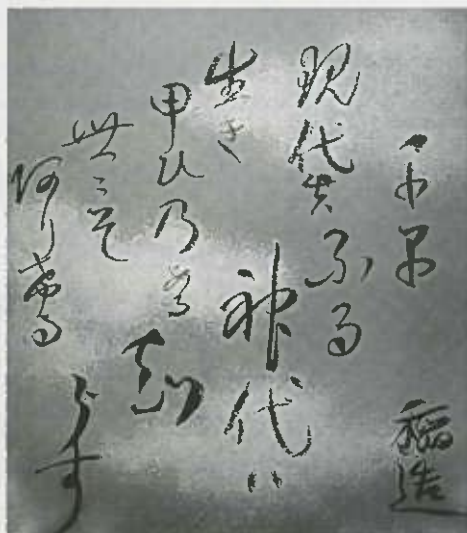
②北郡野辺地村湊浦大砲台場之図

安政2年(1855)
現在の野辺地町。下が北。大砲台場から奥州街道までの「新道」建設の計画が記されており、現在もこの新道が残っています。

当時盛岡藩の勘定奉行であった新渡戸十次郎(1820～1867)は、安政2年(1855)から北方警備のための砲台建設に陣場奉行として携わりました。この時、下北半島(野辺地、脇野沢、佐井、大間、易国間、大畑、尻笥、泊)と北海道沿岸への台場建設を計画しており、その詳細な台場図が当館に残っています。

新収蔵資料紹介

新渡戸稲造直筆の書



縦21・2×横18・2 (cm)

千早ぶる 神代は知らず 現代は 生き甲 びのある 世にぞありける

意味：神の代はどうだったかは知りませんが、現代はまさに生きる張り合いのある世の中ですよ

金色の模様が入った美しい色紙に、上の句を下段に、下の句を上段にする「散らし書き」の手法を使って書いています。教育者として、国際人として、様々に活躍した稲造らしい一首です。「朗詠題詩歌」に収録されている香機の歌「千早ぶる 神代はしらず すみなれて みしもむかしの しがのはま松」を本歌どりした自作の和歌かと思われま

十和田

花巻

新渡戸友好都市 締結10周年記念

花巻新渡戸記念館企画展 「傳の生涯」開催中!!

平成11年9月5日～10月31日

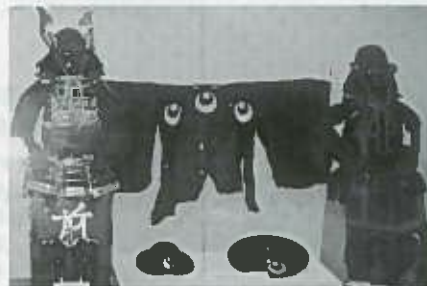
十和田市と花巻市の新渡戸友好都市締結10周年を記念する企画展『新渡戸傳の生涯』を花巻新渡戸記念館で開催中です。傳の生涯をさまざまなエピソードを交えながら紹介する企画展で、傳が花巻で行った開拓、そして三本木原開拓などについても詳しく紹介しています。また新渡戸氏に代々伝わる甲冑も展示され、傳を輩出した新渡戸氏がどんな一族であったかを知ることができます。



今回の展示の目玉として傳が晩年につかっていた駕籠も当館から貸出しています

当館からは37点の 資料を貸出協力!!

今回の花巻企画展には、前回同様資料を多数貸出しています。新渡戸家に残る甲冑から、新渡戸傳の四男太田時敏（新渡戸稲造の養父）着川の鎧、お貸し鎧、陣笠などを貸出しました。また、新渡戸傳が七戸藩大参事を務めていた頃、使用していたと伝わる駕籠は展示室の目玉になっています。



甲冑など展示の様子



▲ポスターには傳の生涯を象徴する資料として三本木原開拓の絵図面が使われています



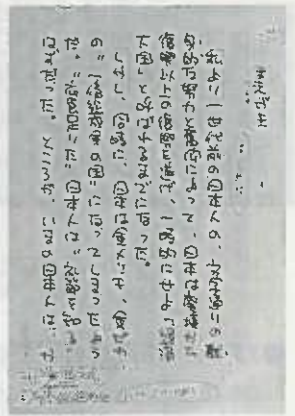
◀展示の様子

新渡戸稲造の著書「武士道」 解説の書

『いま「武士道」を読む—21世紀の日本人へ—』直筆原稿を

著者・志村史夫教授より寄贈いただく

この度、新渡戸稲造の著書「武士道」を解説する書『いま「武士道」を読む—21世紀の日本人へ—』を著された静岡理科大学教授志村史夫氏より、直筆の原稿をご寄贈いただきました。今年8月に出版されたこの書について、産経新聞(9月12日付)では「暗い気分の世紀末を誇りをもって生きると叱咤する」書として紹介しています。志村氏が所長を務める(財)総合科学研究機構・文明研究所は、青森県庁職員の方々からなる「ASGの会」(青森好きですグループ/代表・野戸谷秀樹氏)とともに浅虫でシンポジウム「99青森・浅虫一知の散歩ジウム」を8月28~29日に開催され、新渡戸館長もこの講師の一人として参加しています。このような関係から、今回貴重な直筆原稿を寄贈いただくこととなりました。



丸善ライブラリー299
『いま「武士道」を読む—21世紀の日本人へ—』
平成11年8月 丸善株式会社 出版



志村史夫教授

＜プロフィール＞
1948年東京・駒込生まれ。名古屋工業大学大学院修了。工学博士。米ノースカロライナ州立大学教授を経て、現在静岡理科大学教授、ノースカロライナ州立大学併任教授、(財)総合科学研究機構・文明研究所所長。

＜主要著書＞『半導体シリコン結晶工学』『文明と人間』『古代日本の超技術』『生物の超技術』『ハイテク国家・日本の“知的”選択』『体験的・日米摩擦の文化論』『目覚めよ日本!』他多数

100年の時を経て注目される『武士道』

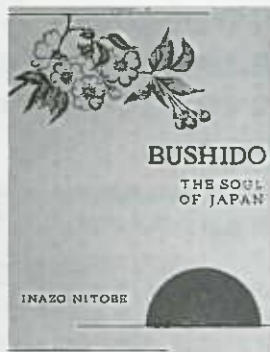
稲造は英文『武士道』序文の中で、執筆の発端はドイツ留学中にベルギー人の法学家ラブレ教授から「日本では宗教教育無しでどうやって道徳を教えるているのか」と質問を受けたことだったと記しています。稲造は、日本人の道徳規範が何であるのか考え、「武士道」と結論づけたのです。それから100年、敗戦、バブル崩壊を経て、明確な道徳規範を失った日本人が国際社会の中で尊敬と信頼を勝ち取るためにはどうしたら良いのか、いま稲造の『武士道』がその手がかりを与える書として注目され始めています。



『武士道』執筆当時の稲造(37歳)

稲造が『武士道』を執筆した背景

稲造が英文で『BUSHIDO-The soul of Japan』を著したのは明治32年(1899)、病氣療養でカリフォルニアに滞在中のことでした。日清戦争の4年後ですが、当時小国・日本は、世界的にあまり知られていませんでした。その後、日本はロシアにも勝利し、世界的に日本への関心が高まって英文『武士道』は一大ベストセラーとなりました。



明治33年版英文『武士道』中表紙

——『武士道』は現在も出版されています——

- ★岩波文庫『武士道』(訳・矢内原忠雄)
…稲造博士の愛弟子であった矢内原氏の訳
- ★講談社バイリンガルブックス『武士道』(訳・須知徳平)
…訳文とともに英語の原文を収録
- ★三笠書房・知的生き方文庫『武士道』(訳・奈良本辰也)
…分かりやすい文体で訳したもの

太素顕彰会の新役員紹介

- 太素顕彰会 理事 沢目 正俊 (十和田市議会議長)
- ” 理事 竹ヶ原 三郎 (十和田市農協代表理事組合長)
- ” 評議員 水尻 公雄 (十和田市農協理事専務)

ご冥福をお祈り申し上げます

太素顕彰会理事を務められていた十和田市議会議長・櫻田彌四郎氏が平成11年7月26日逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

関連情報

●7月1日～9月30日までの来館小学校

(野辺地町) 馬門小学校(八戸市) 江南小学校/根城小学校/湊小学校/高館小学校/八戸小学校/江陽小学校/城北小学校/城下小学校/桔梗野小学校/鮫小学校(十和田市) 南小学校(六戸町) 大曲小学校/開知小学校(五戸町) 切谷内小学校(名川町) 剣吉小学校(青森市) 横内小学校

●第9回青森県民文化祭で三本木原開拓を題材とした市民ミュージカル「^{ほむ}炎らと森と湖」が上演されました

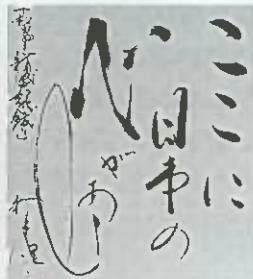
三本木原開拓をベースに、「おしら様」の民話や十和田湖竜神伝説などを絡め構成した市民ミュージカルが、9月26日市民文化センターで上演されました。

●青森県立図書館長・鈴木健二氏来館

鈴木館長は7月16日、十和田市民文化センターで開催された「鈴木健二の朗読と講演」のため十和田市にお出でになり、講演前に記念館を見学されました。



熱心に見学される鈴木館長(中央)



頂いた色紙

記念館資料の提供

●花巻新渡戸記念館「傳の生涯」

9月5日～10月31日開催の十和田花巻新渡戸友好都市10周年記念企画展「傳の生涯」へ当館資料37点を貸出し、展示指導等で協力しました。(詳細2面)

〈編集後記〉

例年に無い酷暑に見まわれましたが、稲生川の水の恵みは豊作をもたらしました。たわわに実る稲穂に先人の労苦を偲びたいものです。「農地は輸入できない」と、稲造博士の『農業本論』に100年も前に記されています。

活動報告

●館長を講師とする講演会

7/14あすなる尚学院専門課程(当館)・8/28～29'99青森浅虫知の散歩ジウム(ホテル南部屋)・9/6あすなる尚学院(弘前市立中央公民館)・9/21県土地改良団体連合職員会総集會(古牧温泉第三グラントホテル)・9/24ふるさと歴史塾(十和田湖町立公民館)

浅虫の講演会記事



●平成11年度太素顕彰会第1回理事・評議員会開催

7月14日に市民体育センターで平成11年度太素顕彰会第1回理事・評議員会を開催しました。平成10年度事業報告、収支決算報告、本年度予算が承認されました。

●(社)農業土木学会誌『水土を拓いた人びと』に館長執筆

(社)農業土木学会創立70周年記念誌として全国の開拓事業をまとめた『水土を拓いた人びと』に館長が「三本木原開拓の祖、新渡戸傳」と題し、執筆しました。



●稲生川土地改良区にて最新裏打ち絵図面を移動展示

8月10日平成11年度第3回稲生川土地改良区理事会にあわせ、今年度新しく裏打ちの完了している三本木原開拓絵図面7点を土地改良区2階会議室で展示しました。

●日本博物館協会東北支部総会に館長出席

9月16～17日に秋田県で開催された日本博物館協会東北支部総会に館長が出席しました。

●東京女子大学名誉教授松川成夫氏講演を冊子に編集

平成10年7月15日「ふるさと発見セミナー」で行われた東京女子大学名誉教授松川成夫氏講演の原稿を太素顕彰会事業として一冊の本にまとめ、今年度中に発刊する予定です。

発行 太素顕彰会
十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
TEL (FAX) 0176-23-4430
印刷 有限会社 岩間印刷所